

支援のプロを、  
世界の現場へ

## \*ピースウィンズ・ショップから\*

### 夏到来! サマーギフト・ 水出しコーヒーはいかがでしょうか!

夏といえば、アイスコーヒー! スッキリとしたきれいな味わいで、しかもご自宅で手軽に作れる東ティモールの有機水出しコーヒーはいかがでしょうか。ポットに入れて一晩漬けておくだけで、翌朝には本格水出しコーヒーが作れる優れもの!ぜひお試しください。

また、毎年好評のおかし屋ばれっとさんのクッキーとコーヒーのセットなど、お中元にピッタリの各種ギフトの販売を開始しました!お世話になつたあの方へ、ピースウィンズのギフトをぜひご利用ください。

※なお、クッキーの賞味期限は1ヶ月となっております。贈り物としてご注文の際にはご留意ください。

### 東ティモールフェスタ 2017 無事終了しました!

今年はピースコーヒーのふるさと、東ティモールが主権を回復(独立)してから15年目にあたる節目の年。日本でも独立記念日に合わせ、東ティモールに関わりのある企業、大使館、自治体、団体、NPO等が協働して「東ティモールフェスタ2017」を開催しました。「知って」

「味わって」「つながる」をテーマに郷土料理のお弁当の販売、専門家による文化、コーヒー、建築に関するトークショー、5名の写真家による鮮やかで美しい写真の展示、東ティモールの紛争を描いた映画の上映、東ティモール人歌手による歌と踊りなど、日本にいながら東ティモールを体感できる時間・空間に延べ約800人が来場し、大にぎわいでした。

PWJは当日、ピースコーヒー販売のほか、他団体と合同でカフェブースを出展し、栽培地や標高で味が違う3種類のコーヒーの飲み比べなどを実施しました。今年はホットコーヒーに加えてアイスコーヒーも提供し、たくさんの方から「美味しい」との感想をいただきました!レテフォホの生産者さんたちにも、みなさんの感想をお伝えしています。

ご注文は、<http://pwshop.ocnk.net/>

同封のご注文用紙をFAX:03-3465-2112またはTEL:03-5738-8021まで  
※ピースウィンズ・ショップの収益はPWJの支援活動に活用されます。



## ピースウィンズ・ニュース



# 熊本地震1年、前を向いて

## —あの日に思いを。仮設団地で追悼イベント—

掛け時計の針が「午後9時26分」をさした。

4月14日、熊本地震で37人の犠牲者が出て熊本県益城町の馬水東道仮設団地。集会所にそろっていた住民たちが手を合わせ、目を閉じた。「黙とう」。家族や親しい人を亡くした人、長年住んだ家を失った人、かつての地域の姿をしのぶ人——。1年前、彼らを襲った震災は一人ひとりに「傷跡」を残した。

宮崎律子さん(65)もその一人だ。築三十数年の自宅は「ペシャンコ」になった。更地になった今も、夫は仮設住宅から毎日のように通う。その姿を見るたびに胸が痛む。愛着のある場所を離れたくないけれど、ひび割れ、液状化した土地の整備には大きな負担がかかる。年金生活なのに、これからどう生きていけばいいのか。「あっという間の1年でした。やっと考える余裕ができたけど、かえって厳しい現実に打ちのめされています。でも、前向きに生きていかんと、しょんなか(仕方がない)もんね」と言う。

お隣さんだった50代の女性は自宅の下敷きになって帰らぬ人となった。この町に住み始めた頃からの付き合いだった。「ただいま」と仕事から帰宅した3分後に被災した、と後から知った。黙とうの時、冥福を祈った。線香は、まだあげられていない。

ピースウィンズ・ジャパン(PWJ)は1年の節目に合わせ、自治会などと追悼イベントを企画した。「1年の日は一人で部屋にいたくない」「誰かと話したい」という住民の声がきっかけだった。当日の夕刻、子どもたちが星やハートをかたどった竹筒に火をともすと、模様が浮かび上がった。集会所では夕食会が開かれ、震災当時の記憶を語り合う住民たちの姿も見られた。

50代の女性は「みんなで集まれてよかったです。『4月14日』を楽しい思い出で塗り替えられたような気がする」と笑った。そして、「いつか自分たちだけで復興をしていかないといけない時が来る。不安だけど、できることをやるしかない」と前を向いた。

まだ1年。被災地には多くの課題が埋もれている。PWJは引き続き、手を取り合って前に進む被災者たちのコミュニティづくりをサポートしていく方針だ。

益城町の仮設住宅



壊れた家屋や倒れかけの電柱が残る益城町



## 支援地レポート

### 佐賀

佐賀の伝統工芸支援事業ピースクラフツSAGAは5月4~8日、パリで開かれた国際工芸フェア「レベラシヨン2017」に出展しました。佐賀県の工艺事業者と作家7組が伝人コーディネーターやデザイナーからアドバイスを受け、伝統的な技法や表現力を進化させた作品を出品。展示ブースにはイヤーや収集家が連日訪れ、商談を繰り返したほか、デザイナーや建築家らも関心寄せ、事業者や作家と交流を深めました。



### ハイチ



昨年10月のハリケーン・マシューで被害を受けたハイチの南県で2月、屋根が壊れていた幼稚園を修復しました。PWJは被災直後から1600世帯に家屋を修理するシェルターキットを配布してきましたが、キットの使い方を学んだ住民有志のメンバーがPWJのエンジニアの指導のもと、被災した幼稚園の屋根を新たに設置しました。園長先生は「子ども達に安全な環境がでて安心しています」と話しています。

### スリランカ

農家や酪農家の支援を続けるスリランカ事業のプログラムマネジャーのギータンジャリが3月に来日し、広島県と島根県にある有機農家や乳業製品会社、保育所などを視察しました。広島県神石高原町で有機農法を実践する田辺ファームでは、厳しい気候の中で複数の野菜を育てる農法や設備を学びました。今回の視察での学びをスリランカに活かしていきたいと思います。



## 被災地をつなぐ、熊本と東北の自治会が交流

PWJが支援する熊本県益城町の仮設団地のメンバーが5月下旬、東日本大震災で被災した宮城県の仮設団地の自治会を訪ねました。仮設団地のコミュニティづくりについて、東北での教訓を活かす目的です。

今回の視察に参加したのは仮設団地の自治会長たち。これまで自治会長の経験がない人が多く、運営に関するノウハウはありません。また、大規模な仮設団地には、東北で自治会長の経験のある人たちやまちづくりの専門家などが訪ねていますが、小規模の仮設団地にはそういう研修の機会もありませんでした。

メンバーは5月22日から4日間、津波被害を受けた石巻市や東松島市などの自治会を訪問。一人暮らしの高齢者の見守り対策や子どもの遊び場のルール、集会所の利用時間や夜間開放などについて意見を交換したり、質問したりしていました。また、各地の災害公営住宅も視察しました。

同行した自治会長の一人は「熊本では各仮設団地で様々な課題があったので、今回の視察で話を聞くことができてよかったです。東北のみなさんから教えていただいたノウハウや知恵を活かし、仮設住宅での課題を解決していきたい」と手ごたえを感じています。



宮城県石巻市で話を聞く様子



岩沼市の災害公営住宅を視察する自治会長たち

## 広島県福山市に 国内4カ所目の譲渡センターオープン

お知らせ

犬猫の殺処分ゼロを目指すPWJは4月28日、国内4カ所目となる福山譲渡センターを構えました。同センターは4つの中で最も広く、約1200頭（2017年5月現在）を保護している同県神石高原町から近いため、常時10~14頭の犬を収容しています。犬と触れ合えるスペースが2カ所あるほか、トリミングルームも完備しています。それぞれの犬の性格をご紹介し、最適なマッチングをさせていただきます。



## 6年の時を経て、南三陸の商店が再開

—東北事業担当の西城幸江より—

PWJが支援する宮城県南三陸町歌津地区の「伊里前福幸商店街」が4月下旬、「南三陸ハマーレ歌津」として6年ぶりにリニューアルオープンしました。この商店街は東日本大震災で多くの店舗が津波に流されました。商店街が仮設店舗で営業を再開した2011年12月、PWJは電化製品や雨どい、スロープなどを提供しました。

支援を始める前、どういった機材や設備を提供するのが役立つか、支援を受ける側の商店主のみなさんに話し合っていただきました。ワークショップ形式で何度も対話を重ねてもらい、当時はまだ本格的な再建なんてほど遠い段階だったにもかかわらず、商店主のみなさんが「地域に明かりを灯したい」「昔の市街地の場所で、もう一度みんなのために立ち上がりたい」と前向きに語っていたことを思い出します。

それから6年。みなさんの思いが実現しました。4月23日に開かれたオープニングセレモニーには、高台に新居を構えた人、公営住宅に入居した人など、地域住民たちが「待っていました！」と言わんばかりに駆けつけました。

セレモニー終了後、取りまとめ役の高橋武一さんにインタビューしました。「短いようで、長かった、ここまで。みんなは『長いようで短かった』と言うけれど、俺は違う。本番はここからだ」と、気を引き締める表情が印象的でした。そして、「万が一、担い手がいなくても、地域のために働き続けて、生涯現役だ！」と笑い飛ばしていました。

約6年が経ち、当時使っていたエアコンは何度も移設されながら、いまだ使われています。再建を見据え、みんなで何度も話し合った時間があったからこそ、大切に使われ、商店主同士のつながりが強くなったのだと実感しています。当初から事業に関わっていた私も、この日を迎えることができたこと、この6年という時間を皆さんと共有できたことを、誇りに思っています。



南三陸ハマーレ歌津の再開セレモニー



南三陸ハマーレ歌津の高橋さんたち



にぎわう商店街

## 支援の現場から

～「難民」とは？伝えたい、支援団体だからこそ迫れる事実～

撃たれた。駆けつけた時には兄は路上にぐったりと横たわり、息はなかった。遺体を自宅まで運び、弔った。「兄は周囲に好かれ人だった。胸が痛い」。振り絞るように振り返った。

「難民を苦しんでいるだけの存在と考えないでほしい」。ジャマールはそんな思いで今年2月から、ピースウィンズ・ジャパン（PWJ）が取り組む高齢者や障がい者向けのトイレ建設事業に関わる。建設作業員の経験を生かし、現場監督者として、ほかの難民たちを指導。完成したトイレは11基になる。「物資の配給を待つだけでなく、自分の能力を活かせる場があるだけで、救われるんだ」と彼は言う。

「難民」になって7か月。難民居住地区で妹と再会できた一方、叔父が射殺されたとの悪い知らせも届く。父らの安否は今も分からぬ。家族の連絡先が記録された携帯電話は飢えをしのぐため売るしかなかった。1990年の内戦時に母親も亡くしている。ジャマールは今、なにを思うのか。

「自分の国に裏切られ、希望を失った。国を捨ててしかなかったんだ」



命からがら逃げてきた体験を語るジャマール

ランドクルーザーのダッシュボードに置いた気温計は、35°Cを回っている。地面は渴き、痛いほど強い日差しを遮るものはない。草木がまばらに生えているだけだ。

「突然俺の家を挟んで、政府軍と反政府軍が銃で撃ち合い始めたんだ」

4月1日、赤道直下のウガンダ北部にあるビディビディ難民居住地区。南スーダン南部出身のジャマール（28）は昨年9月、歩いて国境を越えた。独立記念日直前の昨年7月に始まった両軍の戦闘は、首都ジュバを皮切りに各地に飛び火。27万人もの難民がここに身を寄せている。

いつもの日曜日だった。昨年9月上旬の朝、ジャマールが教会で祈りを終え、帰っていた時——。パパパパパンッ。破裂音が響いた。応戦するように銃声が続く。悲鳴も交じる。近くの茂みに走った。町中へ逃げる父と兄が目に入ったが、声をかける余裕はなかった。茂みで夜を明かして町に戻ると、自宅は燃やされていた。

この数日前、7つ年上の兄が政府軍に射殺されたばかりだった。送迎バイク「ボダボダ」の運転手だった兄は客待ち中に頭を

## PWJの活動にご協力ください

\*認定NPO法人のPWJに対するご寄付は、寄付金控除の対象となります。

### 【郵便振替】

口座番号：00160-3-179641

加入者名：特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン

\*特定の地域・活動へのご支援の場合は、通信欄に国名等（東日本大震災の場合はその旨を）を明記してください。

### 【銀行口座】

#### ●PWJの活動全般へのご寄付

銀行名：三井住友銀行 青山支店

口座番号：普通 1671932

口座名義：特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン広報口

#### ●PWJの東日本震災支援へのご寄付

銀行名：三井住友銀行 桜新町支店

口座番号：普通 6723184

口座名義：特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン

\*領収書が必要な場合などはご連絡ください。ご連絡をいただかない場合、銀行振込ではご住所が分かりかねますので、領収書を発行できません。



荒れ地を裸足で行き来する難民の子どもたち



PWJが設置した水タンクから水をくむ子どもたち

メディア  
掲載報告

- 2/6 NHK「おはよう日本」で世田谷譲渡センターを紹介
- 2/10 施設オジブリ発行の月刊小冊子「熱風」で大西健丞・代表理事の連載「世界が、それをゆるさない。」がスタート
- 2/15 NHK「ひるブラ」で神石高原町の犬舎や飼育の様子などを紹介
- 3/6 広島ホームテレビのドキュメンタリー番組で「殺処分ゼロの裏側で～イヌ・ネコ8万頭の命～」と題し、ピースワンコ・ジャパンの活動を紹介
- 3/15 日本テレビ「天才！志村どうぶつ園」でピースワンコスタッフ安倍誠を紹介
- 4/15 朝日新聞夕刊全面広告「Sippo」で熊本地震のペット同行避難について紹介